

はちおうじ物語 其の三

東西南北 いにしえの道

いにしえの道は

八王子に何をもたらした？

八王子の市内を、幹線道路や鉄道をはじめ多くの道が縦横に貫いています。これらの道は古くから八王子と他のまちを結び、多くの人や物が行き交うことで、八王子を交通の要衝として発展させてきました。八王子に発展をもたらした「道」の歴史を紐解いてみましょう。

かつて多摩川の往来に使われていた平の渡し跡



鎌倉古道（鎌倉街道山の根の道）



中央線特別快速1号列車（昭和42年〈1967年〉）

「いざ鎌倉！」のために整備された鎌倉古道、甲斐からの武田信玄率いる大軍を北条氏照が迎え討った歴史の舞台となった滝山街道（古甲州道）、江戸時代の八王子に宿場町としての発展をもたらした甲州道中、横浜開港を機に輸出品の花形となった生糸を運ぶ道となった浜街道（絹の道）など、八王子を通る道は、それぞれ歴史の中で重要な役割を担ってきました。

近代には、甲州街道や浜街道などに沿うようにして鉄道が開通し、いにしえの道はその姿を変えましたが、八王子に交通の要衝として活発な交流や流通をもたらした、その役割に変わりはありません。道や鉄道は、人や物資だけでなく、時には文化や思想、教育なども運びました。まちとまちが結ばれることで、多くのモノ・コト・人が交流して産業や文化を育む基盤を形成し、相互に関わりながら発展して、八王子市は人口約58万人を擁する中核市となったのです。

寄居 (姉妹都市)

戦国時代、北条氏照の弟・氏邦が鉢形城の城主として、豊臣秀吉による小田原攻めの軍勢に対し籠城戦で抵抗しました。

寄居町とは、平成29年(2017年)に本市が市制100周年を迎えることを機に、戦国時代に広く関東を治めていた北条氏のゆかりから平成28年(2016年)に姉妹都市の盟約を結びました。



鎌倉街道山の根の道

五日市道は、五日市と八王子を結び、江戸時代には炭などが江戸へ運ばれていました。また、幕末から明治時代には、横浜から八王子を経て五日市へと西洋文化が流入してきた道でした。

五日市道(伊奈道)

佐野川往還(案下道)

古甲州道

八王子城跡

小仏関跡

高尾山

江戸時代、諏訪の高島藩諏訪氏、伊那の高遠藩内藤氏、飯田藩堀氏が参勤交代のため、小仏関所と八王子宿を通り、江戸へ向かいました。

富士道

小田原道

小田原 (姉妹都市)

戦国時代、豊臣秀吉の小田原合戦の際に、北条氏照は八王子城に重臣を置いて守らせ、兄氏政と甥氏直と共に小田原城に籠城しました。

小田原市とは、平成29年(2017年)に本市が市制100周年を迎えることを機に、戦国時代に広く関東を治めていた北条氏のゆかりから平成28年(2016年)に姉妹都市の盟約を結びました。



長野

棚畑遺跡(長野県茅野市)で出土した「縄文のビーナス」を模倣した土偶が、小比企向原遺跡で出土しています。

甲斐

戦国時代、甲斐国(現山梨県)の武田信玄は何度か八王子に攻めてきました。武田家滅亡の後、信玄の娘松姫が案下道を通り、八王子へ逃れてきました。その後、江戸時代には、武田家の旧家臣(小人頭)が核となって八王子千人同心が成立し、甲州道中の警備と治安維持を担いました。

写真提供：甲府市



富士吉田

江戸時代中期以降、庶民の間で流行した富士講は、八王子の高尾山を参詣した後に富士山へ参るのが慣例でした。

歴史へのアクセス

まちからまちへ、人やものを運び、文化を運び、時代を動かしていった道。八王子を通る様々な「道」には、魅力ある歴史があります。

日光（姉妹都市）

江戸時代、八王子千人同心には、甲州道中の警備以外に日光東照宮の警護という新たな任務が与えられました。日光勤番または日光火の番役と呼ばれるこの任務のため、平の渡してから多摩川を渡り、日光脇街道を通っていきました。

日光市とは、このときの縁で、昭和49年（1974年）に姉妹都市の盟約を結びました。

江戸

江戸時代、甲州道中沿いは観光スポットになっていたようで、松尾芭蕉や葛飾北斎、歌川広重が往来したほか、十返舎一九が『甲州道中記』を、仮名垣魯文が『身延参詣甲州道中膝栗毛』で道中の様子を書き残しています。また、新茶を宇治から江戸の将軍に献上するため茶壺を積んだ荷駄が甲州道中を通りました。

横浜

幕末から明治時代、横浜開港を機に、各地の生糸の集積地であった八王子から浜街道（絹の道）を経て横浜へと運ばれていきました。

また、横浜からは多くの西洋の文化が八王子に入ってきました。

鎌倉

鎌倉時代初期、和田合戦が原因となり没落した横山党に代わって横山荘（現八王子市周辺）を支配したのが鎌倉幕府の政所別当大江広元です。広元の次男時広が出羽国置賜郡長井荘（現山形県米沢市・長井市周辺）の地頭職に任じられ、長井氏を称します。その後、長井氏の一族が八王子に土着し、戦国時代まで続きました。

日光脇街道

古川越道

甲州道中（甲州街道）

御殿峠古道

浜街道（絹の道）

八王子道

鎌倉街道山の根の道

滝山城跡

まちとまちをつなぐ鉄道

甲州街道や浜街道など、古くから使われてきた道に沿うようにして、多くの鉄道が敷設され、八王子は商工業のまちとして、また交通の要衝として発展していきました。



中央本線



明治22年(1889年)に、甲武鉄道が八王子駅を開業し、新宿―八王子間が開通しました。山梨県からは、石材・生糸・薪炭などの特産物が八王子を通して東京に輸送され、八王子から山梨へ米・酒・醤油・味噌などが送られていきました。

横浜線



明治41年(1908年)に八王子や甲信地方で生産された生糸を横浜へ輸送することを目的として、横浜鉄道が開業し、八王子―東神奈川間が開通しました。

八高線



昭和6年(1931年)に八高南線が開業し、昭和9年(1934年)に八高北線の小川町―寄居間の開通をもって八王子―倉賀野間が全線開通しました。群馬への貨物には五日市のセメント・肥料・山梨県産のブドウなどが積み、逆に八王子への貨物には輸出用ユリネ・生糸・小麦・製糸原料などが積まれていました。

高尾登山電鉄



昭和2年(1927年)に、清滝―高尾山間のケーブルカーが開業しました。開業当初は、急勾配を往復するケーブルカー自体の物珍しさと、武蔵陵墓地と合わせた高尾山への参拝者が増えて活況を呈しました。現在も高尾山へ参拝者や登山者を運ぶ路線として利用されています。



京王線

大正14年(1925年)に、玉南電気鉄道(当時)により、府中―東八王子(現京王八王子)間が開業されました。その後、昭和元年(1926年)に、新宿―府中間を結んでいた京王電気軌道が玉南電気鉄道を合併しました。



京王相模原線

大正5年(1916年)に調布―多摩川原間で京王電気軌道が多摩川で採取された砂利を都心に運搬するための鉄道として開業した多摩川原支線が元になっています。その後、多摩ニュータウンの建設を契機に、線路を西へと延伸させました。



京王高尾線

京王高尾線は、昭和6年(1931年)に武蔵陵墓地への参拝路線として北野―御陵前間で開業した御陵線が元です。第二次世界大戦中に休止しましたが、昭和42年(1967年)に京王帝都電鉄が路線の一部を復活させ、北野―高尾山口間が開業し、高尾山などを訪れる人々を運ぶ路線として利用されています。



多摩都市モノレール

昭和61年(1986年)に多摩都市モノレール株式会社が設立され、平成12年(2000年)に上北台―多摩センター間が開通しました。市内には「松が谷」「大塚・帝京大学」「中央大学・明星大学」の3駅が開業しました。

かつて市内を走っていた路面電車 武蔵中央電気鉄道

昭和初期に八王子市街と高尾山を結んだ路面電車です。昭和7年(1932年)には、東八王子・八王子駅前―高尾橋(高尾山の入口)間が開通し、市民のみならず、登山客の足として利用されていました。しかし、経営状況の悪化に伴い、京王電気軌道(現京王電鉄)に買収され、戦時色が濃くなる中で運転を休止しました。線路の敷石は、今でも並木町の長安寺などに残っています。昭和戦前期の一時代、八王子市街地の風景を彩った路面電車です。



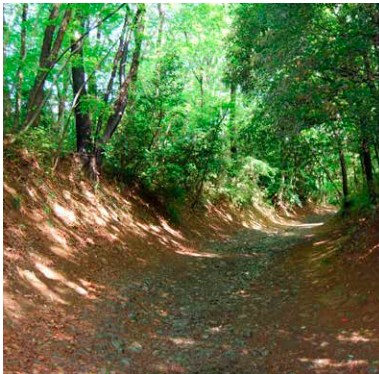
八王子市街(八日町)



高尾山麓付近

主な構成文化財

① 絹の道

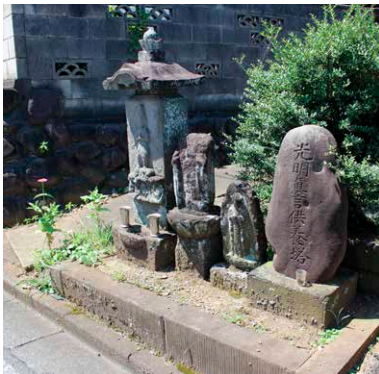


市史 日本遺産

〔鍾水〕

幕末期から明治中期まで、八王子から横浜に輸出用生糸を運んでいた道です。平成8年(1996年)に文化庁「歴史の道百選」に選定されました。

② 日光脇街道



〔尾崎町〕

千人同心が日光東照宮火の番勤務のために往来した街道で、八王子の千人町と日光東照宮を結んだ街道です。

③ 甲州街道イチョウ並木



市記

〔並木町ほか〕

昭和2年(1927年)の大正天皇陵完成に伴い、昭和4年(1929年)に道路改修された際に、宮内省(現宮内庁)によって植えられました。イチョウは、市制60周年を記念して、昭和51年(1976年)に「市の木」に制定されました。

④ 口留番所跡



市史

〔上恩方町〕

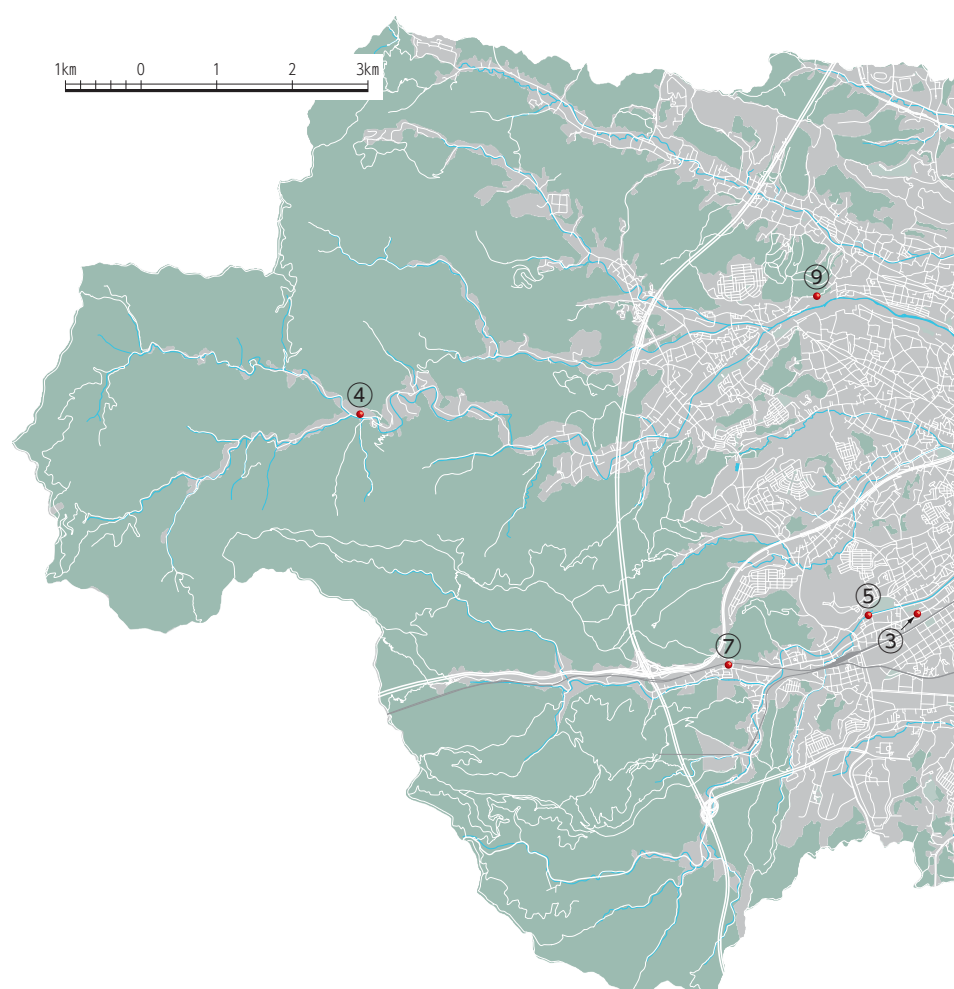
甲州街道の裏街道にあたる佐野川往還の分岐点、高留にあった番所跡です。口留番所とは、江戸時代、交通の要地に人や物資の出入りを検査するために設けられた見張り所です。明治2年(1869年)に廃止されるまで村持ちで管理していました。現在でも付近を「関場」と称しています。

⑤ 鎌倉街道山の根の道(古道橋)



〔東浅川町〕

鎌倉街道の主要な道筋は上ノ道、中ノ道、下ノ道の3本でしたが、そのほかにも多数の枝道、間道があり、山の根の道もそうした道でした。鎌倉街道山の根の道は秩父から青梅、五日市、八王子など、山辺を縫う様に走る道でした。武蔵陵墓地付近に架かる古道橋は、かつての鎌倉街道の跡です。



国史：国指定史跡
日本遺産：日本遺産構成文化財

市史：市指定史跡
市記：市指定天然記念物

※①②⑤⑩の地名は掲載写真の場所を示しています



⑥古川越道(平の渡し跡)



〔平町〕

古川越道は、八王子と武蔵村山三ツ木、さらに川越を結ぶ道でした。道中には、江戸時代に多摩川の渡し場として機能していた「平の渡し」がありました。

⑦小仏関跡



国史 日本遺産

〔裏高尾町〕

北条氏照が武蔵国と相模国境の要衝として小仏峠に築いたのがはじまりといわれています。天正8年(1580年)に駒木野に移ったといわれ、その後、現在の位置に整備されたといわれています。

⑧長安寺参道の敷石



〔並木町〕

長安寺の参道にある敷石は、昭和4年(1929年)から10年間、市内を走っていた武蔵中央電気鉄道の路面電車の敷石を再利用しています。

⑨さげ坂



〔川口町、西寺方町〕

近世期には、川口から恩方、高尾方面への通行に利用されていました。川口側の入り口には、庚申塔や第六天王という神奈川県地域信仰のいわれを持つ石碑が立っています。

⑩小野路街道



〔北野町〕

八王子と小野路(現町田市)を結ぶ古道です。古くは猿丸峠や猿山通りとも呼ばれ、峠には馬や牛に水を飲ませていた水飲み場があり、当時のおもかげを残しています。また、JR横浜線にある「小野路街道踏切」という名にも、古道の記憶が残されています。

文化財の保存・活用事例

伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル～

八王子駅周辺のまちなかを舞台に、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団の主催で、八王子や多摩地域に伝わる伝統文化・芸能の魅力を気軽に鑑賞・体験できる事業として開催しています。

平成30年度(2018年度)に行われた「古道が紡いだ八王子の物語」は、昔の八王子の姿と、先人たちが歩いてきた数々の「道」の物語で構成され、【縄文時代】山の民・海の民 縄文街道 大交流時代、【飛鳥・奈良・平安時代】国づくり国道ネットワーク、【鎌倉時代】いざ鎌倉！もののふ(武士)の時代の道づくり、【戦国時代】群雄割拠！戦国の武士たち 城づくりのものがたり、【江戸時代】家康の新しいまちづくり にぎわう宿場通り、【明治～現代】生糸と織物 荷車から鉄道へ 人とモノの新・創世記の全6話を上演しました。また、語りの中で、映像と音楽、そして道に見立てた糸を紡ぐダンスパフォーマンスが披露されました。



日光千人同心街道四十里ジャーニーラン

八王子市千人町から^{はいじま}拜島宿(昭島市)、^{さかど}坂戸宿(坂戸市)、^{たてばやし}館林宿(館林市)へと北上し、^{てんみょう}天明宿(佐野市)で例幣使街道、^{れいへいし}楡木宿(鹿沼市)で壬生街道、^{にれぎ}今市宿で日光街道に合流して東照宮に至る40里(約160キロメートル)の道筋。この千人同心街道(別称日光脇街道、日光裏街道、日光火の番街道)と呼ばれる道は、承応元年(1652年)から慶応4年(1868年)までの間に、千人同心が日光勤番のため1,000回を超える往来をしたといわれています。

歴史の舞台から彼らの姿が消えて約150年の時が流れた今、その史実を追体験する第1回のランニングイベント(主催：NPO法人スポーツエイド・ジャパン)が令和元年(2019年)6月15日・16日に開催されました。

